

平成 27 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書 (全 日 制)

県立神奈川総合産業高等学校

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
SSHの成果を生かし、国際的に活躍する創造的な科学技術系人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験、実習、演習による科学技術教育及び英語教育の充実 ○ プレゼンテーション能力の向上及び外部発表への積極的な参加 ○ 探究活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組状況や活動状況とその成果 ○ 外部の発表に積極的に参加できたか ○ 意欲的に探究活動に取り組めたか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科、外国語、専門科目において実験・実習を中心とした科学技術教育・国際教育を行った。 ○ 2回の校内生徒研究発表会を実施し、プレゼンテーションの能力の向上に努めた。また、課題研究英語発表会を実施し、科学英語活用能力の向上に努めた。 ○ 「かながわ国際サイエンスフォーラム」など、外部の科学技術系コンテストに参加することができた。 ○ 「科学の甲子園」神奈川大会に参加し全県で3位の成績を収めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術の探究活動教育の成果の中心である「課題研究Ⅰ」の受講者が昨年よりも増加し、少なかった前年(昨年度92人:本年度124人)を30人以上上回った。積極的に履修を促した結果であるとともに、来年度は198人が履修予定である。より一層の内容の充実を図りたい。 ○ 校内生徒研究発表会でポスター発表を行った生徒の95.8%が効果的な発表ができたと回答するなど、プレゼンテーション能力が高まった。しかし、課題研究英語発表会では、英語での質問に答えられた生徒が42.1%のみと科学英語活用能力が不十分であり、科学英語の活用場面をさらに増やす必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な選択科目と充実した施設を生かして、興味や関心に応じた特色ある科目を学ぶことができている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SSHの指定が終了しても探究および体験活動や発表活動等の特色ある取り組みの継続が必要である。 ○ SSH事業の中で、中学校でのポスター発表は中学生では目にしない、耳にしないことが学べる貴重な体験となっている。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SSH最終年度として、効果的な国際・科学技術教育を展開することができた。 ○ 研究発表等とおとしたプレゼンテーション能力の育成を行った。科学英語運用能力の向上に向けた様々な取組を行っている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度入学生からの課題研究必修化に向けて体制を整えていく必要がある。 ○ 7年間にわたるSSH指定で得られた事柄を生かすため、今後の行事やカリキュラムを検討していく必要がある。
生徒が主体となり、個性に応じた高校生活を送り、安心で安全な、明るく活力のある学校をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつの励行および校内美化の推進 ○ モラルやマナー意識向上を目指した道徳教育の推進 ○ 生徒の主体的な活動の促進および支援 ○ 特別活動の活性化と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組状況や活動状況とその成果 ○ 新たな取組の実施状況 ○ 生徒アンケートによる満足度が80%以上を達成できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が率先してあいさつをすることで、生徒が自然とあいさつをするようになった。また、生徒の清掃活動も定着した。 ○ 相模原地区交通安全デー(春秋2回)への参加やスケアードストレイト(事故現場の再現)を実施し、自転車の乗車ルールやマナー等を啓発し、安全意識の向上が図れた。 ○ 体育祭や文化祭等の生徒会行事では、生徒が主体となって企画・運営をすることができた。 ○ 生徒会における主体的な活動が認められ、本部役員1名が神奈川県教育委員会表彰を受賞した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清掃日には率先して清掃に取り組むが、それ以外の日に自発的に校内美化に取り組むように意識づけをする必要がある。 ○ 自転車登校中の交通事故が若干ではあるが発生しているため、さらに交通安全意識の向上を図っていく必要がある。 ○ 学校行事に関しては生徒主体での企画・運営が定着してきたが、生徒任せにするのではなく、より内容を深めたり、新たな企画に取り組めるように支援していく必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の主体性が生かされた体育祭および文化祭や選択できる研修旅行等の学校行事で生徒が充実した学校生活を送っていることが感じられる。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が明るく活発な雰囲気が良い。全体的にあいさつもしっかりしており好印象である。より自由な発想力、自主性、自制心を育成してほしい。 ○ 地域および保護者関係の活動等に、生徒が積極的に参加していることは好感がもてる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のあいさつや清掃活動が定着し、学校全体が明るい雰囲気になっている。 ○ 学校行事では生徒が自ら考え企画し主体的に運営し、内容もより充実することで達成感が向上した。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒がより自主自律を意識した行動や活動ができるよう支援していく。 ○ 校内に留まらず外部との連携した取り組みができるように働きかけを行う。

<p>生徒一人ひとりが主体的に学習する基盤を養い、表現力の育成と学習習慣を確立し、より高い学力を定着させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力から発展へ学力向上を目指すために言語活動を重視した授業展開 ○ 思考力、判断力、表現力をはぐくむための主体的な学びと学習習慣の確立 ○ 生徒による授業評価を活用した教科指導の工夫・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組状況や活動状況とその成果 ○ 生徒の学習習慣の定着度が上がったか ○ 生徒による授業評価で充実度が上がったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 90分授業の展開を説明、課題、発表等を工夫することで、基礎的な知識及び技能が定着できた。 ○ 特別補習、春・夏・冬季講習を実施し、生徒の学力の定着及び向上に努めた。 ○ 修得した知識・技能を活用して課題解決に主体的に取り組めるように調べ学習、グループ学習や意見発表を多く取り入れた。 ○ 年間をとおして、研究授業、授業改善、授業評価、校内研修会など、組織的な授業改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動を重視した授業展開が教科の中でスタンダードがなく各個人の取り組みとなっているので、研究授業等をとおして、教科で統一した取り組みにしていく必要がある。 ○ 生徒による授業評価で、「授業の充実感」の項目で89.9%、「説明のわかりやすさ」の項目で93.9%の生徒から肯定的な回答を得た。引き続き、組織的な授業改善に取り組む必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の発表の場が多くあり、主体的に学習に取り組む様子が感じられる。さらに、生徒の家庭学習習慣が定着する姿勢が身につくとよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒による授業評価で生徒主体の授業の工夫が改善されており、生徒の発表をする機会が充実していることがわかる。さらに授業の充実感を高める工夫が必要である。 ○ 家庭学習時間が少ない生徒が多いようだ。生徒の学習意欲を高め、向上心をさらに育むことから、多くの生徒が勉強する雰囲気になるとよい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動、体験活動、調べ学習、グループ学習や意見発表を積極的に取り入れ、生徒が主体的に授業に取り組んでいる。 ○ アクティブラーニングを意識して、言語活動を重視した組織的な授業改善に全職員が取り組み、研究授業、職員研修が定着している。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「生徒による授業評価」では概ね高い評価を得たが、より生徒のニーズや実態が反映されるように、継続的に授業研究を行い組織的な授業改善に取り組む。 ○ 生徒の進路実現に向けて、より高い目標をもって学習に取り組めるよう、日々の家庭での学習時間を確保するための課題学習や、補習・講習をより充実させる方策を検討していく必要がある。
--	--	--	---	--	--	--

<p>教育相談体制の充実や生徒の主体的な進路選択を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育実践プログラムに基づいたガイダンスや進路指導の実践 ○ いじめなどの相談体制やケース会議の充実をもとにした教育相談の推進 ○ 進路に関する情報を共有し、学校全体で組織的・計画的な進路支援に取り組む ○ いつでも一人ひとりの生徒の相談に対応できる体制と進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組状況や活動状況とその成果 ○ 新たな取組の実施状況 ○ 学校全体での取組ができたか ○ 希望する進路先への進路状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校のキャリア教育実践プログラムに基づき、キャリア教育を実践した。 ○ 「進路の手引き」を作成し、全生徒に配付した。各年次の発達段階に合わせて利用し、面談週間等の進路相談時に活用した。 ○ 進路相談室を常に開放し、常時、進路相談に対応できる体制を維持した。 ○ 生徒対象の進路希望調査、進路ガイダンス、大学・専門学校分野別説明会、指定校推薦説明会等を実施し、進路意識向上を支援した。 ○ 各年次保護者対象進路説明会を実施し、保護者の現状理解と協力をお願いした。 ○ 2年次1月から就職希望者指導を実施し、意識を高め、個々の希望する進路先を決定することができた。 ○ 取組の成果が進路決定中間報告(12/18現在)に現れており、153名が進路決定した。更に約90名の生徒が一般受験に挑戦した。 ○ いじめ対策会議を設置した。いじめ問題アンケート(3回)を実施し、いじめの実態把握をし、気になる内容については迅速に対応し解決を図った。 ○ ケース会議を定期的に関き、情報交換を行い、適切な対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路調査で50%を超える生徒が平日の家庭学習時間が1時間未満であり、学習意欲向上を目指した各年次進路ガイダンスが必要である。 ○ 各年次の発達段階に合わせたキャリア教育を充実させ、組織的、計画的に取り組み、学ぶ意義の理解と学習意欲向上を育成する。進路調査を活用し、個々の生徒が関心を持った分野へのガイダンスを充実させ、キャリア発達を促し、高校教育が社会につながることを理解させる。 ○ 各年次全員受験のスタディーサポート(学習到達度テスト国英数)を活用し、自分にあった学習方法を理解させ、生活・学習指導による学習意欲向上を図る。 ○ 保護者進路説明会等で最新の進路情報を提供し、クラス担任による三者面談実施等により、家庭と連携を密にし、協力を得る。 ○ 就職希望者に対する希望職種・希望企業決定や会社見学への支援、採用試験・面接のための指導を充実させる。 ○ 今後も、いじめ対策会議を中心に、いじめの実態把握・対応を図るとともに、職員研修会等とおして「いじめをなくす」ための研鑽を積んでいく。 ○ ケースによっては外部関係機関と連絡を取り合いながら教育相談の充実を図る。 ○ 教育相談に対する理解とその積極的な活用を推進していく。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習方法や進路決定などについて、きめ細かなガイダンスや面談があり、効果的な相談をすることができた。 ○ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの拠点校として、教育相談体制が充実しているのは心強い。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の一環として進路説明会や社会人などの外部講師による講話を実施し、早い時期からの職業選択の意識付けに取り組んでいる。 ○ 進路年間計画に則り、入学から卒業まで計画的に行事に取り組み、充実した進路指導を行っていると感じた。 ○ いじめ対策会議の設置とアンケートの実施から生徒の状況を把握し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して教育相談体制も充実していると感じられる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面談習慣やホームルームの時間および総合的な学習の時間等を活用して、本校のキャリア教育実践プログラムに基づき、各年次(発達段階)に合わせたキャリア教育を計画的に進めることができた。 ○ 生徒の進路実現に向けて、進路希望調査により生徒の希望を把握し、進路指導室の活用、進路ガイダンスや各種説明会、進路行事等を実施し、生徒のニーズに応じた情報提供や進路指導を計画的に進めることができた。 ○ 学習到達度テストや模擬試験の実施、夏季講習の充実、および面談や保護者との連携により、生徒の進路実現に向けた支援を行うことができた。 ○ 個別の生徒相談に対して、全職員が協力してきめ細かい指導と迅速な対応を充実させることができた。(改善方策等) ○ 各教科指導や教科外指導においても、キャリア教育が推進され、一人ひとりの生徒の学習意欲向上が達成されるように常に検証する。 ○ 進路調査では各年次にわたって、日常の学習時間が少ないため、家庭学習習慣を培うために、学習課題(わからないところ)を残さないための自宅学習時間の増加や学習意欲の向上を促す指導や支援が必須である。 ○ 今年度、スクールソーシャルワーカーの拠点校として機能したことを生かし、生徒の相談が多様化していることから、今後も外部機関との連携を図り一人ひとりに応じた対応の充実を図ることが必要である。
------------------------------------	---	--	---	--	---	--

<p>地域および他学校間の連携を強化し、開かれた学校とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校、家庭、地域が連携した教育活動の展開および開かれた学校づくりの推進 ○ 学校説明会、ホームページ等を活用した学校広報活動の推進 ○ 交通安全啓発活動等本校が拠点となる取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組状況や活動状況とその成果 ○ 地域や外部機関との連携、活動状況やその成果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相模原中等教育学校、相模女子大高等部との3校連携で小学生対象の体験教室や地元中学生を対象とした教室巡回ポスター発表やサイエンスコミュニケーションや、県内27高校と連携した「かながわ国際サイエンスフォーラム」を実施した。また、地元の16企業での体験学習を実施した。 ○ 相模原中等教育学校、相模女子大高等部との3校連携で連携による通学路の清掃活動を行った。 ○ 地元自治会主催の祭りに生徒会やジャズバンド部・大道芸部・ダンス同好会が参加し、地域との交流を深める計画を立てた（雨天中止）。 ○ 小学校6年生を対象とした科学技術体験教室、高校体験プログラムを中学3年生対象に実施した。 ○ 中学校計6校のPTAが学校見学に来校した。また、中学校計9校から進路説明会への参加依頼があり説明を行った。 ○ 全公立展、相模原地区公私合同説明会、県産業教育フェア、ロボフェスタ2015に参加し学校紹介を行った。 ○ 学校説明会を本校において4回開催し、個別の学校案内も実施した。 ○ HPによる情報発信を頻繁に行い、本校行事等を速やかに掲載した。また、本校の施設設備を活用した独自の授業内容等の情報も掲載した。 ○ 相模原南署、相模原市役所、本校サポーターズ、生徒有志による交通安全啓発活動を年2回実施した。 ○ スケアードストリート式交通安全教室を実施した。 ○ サポーターズ・福祉委員・ジャズバンド部・大道芸部有志が知的障害者更生施設「紅梅学園」を訪問した。 ○ 広報スタッフが谷口台小学校において、小学校3年生を対象に、高校生による非行防止教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各連携事業については、参加者の多くが満足していると回答している。小学生への体験教室は希望者が多いことから、体験の種類を増やす必要がある。中学生への体験教室「サイエンスワークショップ」は実施時期を変更した結果、参加者が少数にとどまった。実施時期を再検討したい。 ○ 今後も地域との交流を継続していく。 ○ 体験した児童の感想文を読むと科学技術に対する興味関心を持ったことが書かれていた。 ○ 進路説明会へ例年通り参加した。県下で唯一の学科なので中学教員および生徒への理解を深めたい。 ○ 学校説明会を7月、10月、11月に4回実施した。参加者は昨年よりやや増加した。実施時期及び回数を検討したい。 ○ HPの更新回数を増加させた本年は閲覧者数が増加している。引き続き更新していきたい。 ○ 交通安全啓発活動を今度も継続し、交通安全に対する意識の向上を図っていく。また、スケアードストリート式交通安全教室は毎年1回の実施をめざしたい。 ○ 交通安全啓発活動を今後も継続し、交通安全に対する意識の向上を図っていく。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会場校として大変なこともあると思うが、各種行事等において恵まれた学校の施設や設備を有効に活用している。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種イベントを多く実施することで、学校の特色を地域等にも紹介するとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上につながっているのではないかと感じる。 ○ 一生懸命取り組む生徒が多く、教職員の日々の取組が生徒に反映されているように感じられる。 ○ 広報活動として、HPはよく更新され、学校の取り組みが誰にでもわかるように工夫しているが、本校の良さを近隣の中学校などにもっとアピールするべき。 ○ 生徒が地域の行事に積極的に参加していることに感謝したい。高校生が参加することで行事が盛り上がり、大変好評である。 ○ 自転車事故などが多い地域なので、安全や防災についての意見交換会や図上訓練ができる機会がほしい。今後も交通安全教室、自転車の乗り方、マナーなど継続的な交通安全指導を行ってほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒活動を取り入れて、交通安全啓発活動や地域貢献デー、科学技術体験教室などを通して警察、行政、自治会、近隣小中学校やPTAとの連携を深めることができた。 ○ 学校説明会や各種行事の会場として、また学校HP等を通しての情報発信によって、開かれた学校づくりを推進し、本校に対する関心を高めるための機会を充実させた。 ○ 地域の行事に生徒が主体的に参加することで、地域貢献と交流を深め、本校の認知度が徐々にではあるが増加している。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校HPやメール配信は、家庭用IT機器の普及により今後の学校案内や紹介の重要な手段となりうると思う。紙媒体の学校案内の充実も重要であるが、更新回数を増やして、さらなる内容の充実を検討したい。 ○ 総合産業科への理解と、本校の特色ある取組をより一層周知するために、これまで周知していなかった地域の中学校等にも広報活動を広げていくことが必要である。
------------------------------------	--	---	---	---	---	---

<p>職員の不祥事防止の徹底、防災教育の充実により、信頼される学校とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事故防止会議および事故防止研修の継続による職員コンプライアンスの向上 ○ 生徒の防災意識の喚起および安全対策の一層の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事故および不祥事件数のゼロを継続できたか ○ 防災教育の取組状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員会議後の不祥事防止研修会や外部講師による講演会の実施、県からの通知及び日常の事故防止情報の周知により、事故及び不祥事件数ゼロを継続した。 ○ 迅速な生徒把握ができるよう、防災訓練を工夫し、実施した。 ○ 防災教育の一環として、危機管理意識を高める目的で、12月に生徒会役員と各クラス学級委員を対象に災害図上訓練を実施した。また、10月に生徒会役員と1年次校紀委員が相模原市主催の帰宅困難者訓練に参加し、相模大野駅から避難所への避難誘導を体験した。 ○ 緊急連絡手段として「まちcomi」の導入を行い、生徒・保護者への登録を進めた。 ○ 「気象警報発令時並びに災害発生時の授業対応について」より生徒・保護者にわかりやすい内容に変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き職員会議後に、不祥事防止会議を設定し実施する。また、日常の事故防止情報の周知により職員の不祥事防止意識を高めていく。 ○ 防災教育の充実を図り、生徒自身の危機回避能力を向上させる。 ○ まちcomiには、生徒55.41%、保護者97.8%（H28.1.25現在）が登録しているが、今後さらなる登録の推進を図るとともに、新入生には「入学のしおり」に登録を周知する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「まちcomiメール」の配信により、緊急連絡だけでなく、行事等の連絡を実施していることは、学校の情報が直接保護者に伝わってくるのでよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災教育を充実していくことはとても大事であるが、災害発生時には近隣には遠くまで逃げられない方もいるので、防災での地域との連携が必要である。今後は、防災活動において、地域連携をさらに深めていくことを検討してほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループによるテーマ別不祥事防止研修会や、外部講師による講演会の実施、また管理職による日常の啓発などにより、職員の不祥事ゼロが継続されている。 ○ 防災教育の充実を図り、災害図上訓練と帰宅困難者訓練を実施して、生徒の防災意識の向上に努めた。また、避難訓練では生徒の迅速な避難及び非難生徒の把握を意識した防災訓練を実施した。 ○ 学校防災マニュアルを改訂し、安全対策を念頭に置いた緊急時の対応や連絡方法の確保に努めた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の教育公務員としての自覚を促し、事故不祥事の未然防止と事故等発生時の緊急対応を意識させたリスクマネジメントの確立を目指す必要がある。 ○ 安全対策について、絶えず職員の共通認識を高めるとともに、生徒、保護者の視点に立った対応を行う。
---	---	---	---	---	---	--